

平成19年度 特別展

船と船大工

Boats and Boat Carpenters

— 湊町新潟を支えた木造和船 —

2007年9月15日(土) — 11月11日(日)

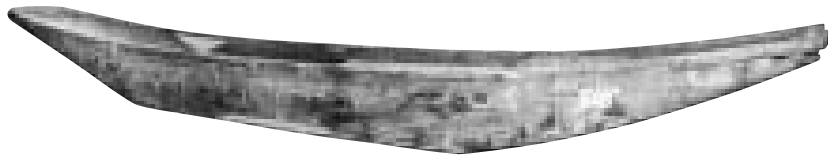
開催趣旨

蒲原平野では、有史以前から、船が盛んに利用されていました。船を利用した交易や生産活動は、近世の湊町新潟を成立させ、同時に数多くの新田村落を平野の中に誕生させました。近代に入っても船は新潟市の基盤を支える重要な交通手段でした。

平野にくらす人々の生活を支えるための膨大な船の需要は、多様な船を作る土壌を醸成し、船をつくることをなりわいとする船大工という職業を身近なものとなりました。

この企画展示では、港湾都市としての新潟の繁栄、さらには広大な蒲原平野の生産力の基盤に、多様な船が存在したこと、そしてそれらをつくる船大工の技術があったことを紹介します。

自動車に依存する現代の生活が到来するすこし前の時代に、まったく異なる交通手段を前提とした生活世界があったことに関心をもっていただければ幸いです。



チョコ(当館蔵)
信濃川河口の船

展示構成

- 1.舟木と船大工の道具…………… 船大工の道具など
2. 削る技法を用いた船…………… チョコ、削舟(くりぶね)型田舟など
3. 浜の船・磯の船…………… マルキ・サンパなど
4. キツォとイタアワセ…………… キツォ(田舟)・イタアワセ(農作業用の船)など
5. ナガフネとコウレンボウ…………… コウレンボウ(大型の川船) 模型など
6. ベザイー小廻しから千石船まで… ベザイー(海の荷船) 模型など
7. 木造和船ができるまで…………… 作業写真、工程図、文書など



船大工の道具(新潟市豊栄博物館蔵)
新潟市指定有形民俗文化財



阿賀川帳(個人蔵)
昭和初期の船大工の帳面

講演会

2007年10月6日(土) 午後2時～3時30分
講座「越後の木造船の世界(仮題)」
(北方民俗研究者・赤羽正春氏)
会 場:2階セミナー室
資料代:100円
定 員:80名

◆講演会申し込み方法 9月28日(金)必着。氏名・住所・連絡先を明記し、往復ハガキか電子メールにて下記博物館まで。

ミニシンポジウム

2007年11月11日(日) 午後1時30分～4時30分
「船と船大工をめぐって—木造船の魅力を語る」
池田哲夫氏(新潟大学人文学部教授)
鶴巻康志氏(新潟市教育委員会) 会 場:2階セミナー室
中川伸一氏(船大工) 資料代:100円
福井宣明氏(ねっとわーく福島潟・副会長) 定 員:80名

◆ミニシンポジウム申し込み方法 11月2日(金)必着。氏名・住所・連絡先を明記し、往復ハガキか電子メールにて下記博物館まで。

展示解説会

毎週日曜日午後2時～(40分程度) ※最終日の展示解説会は、ミニシンポジウム終了後になります。

INFORMATION

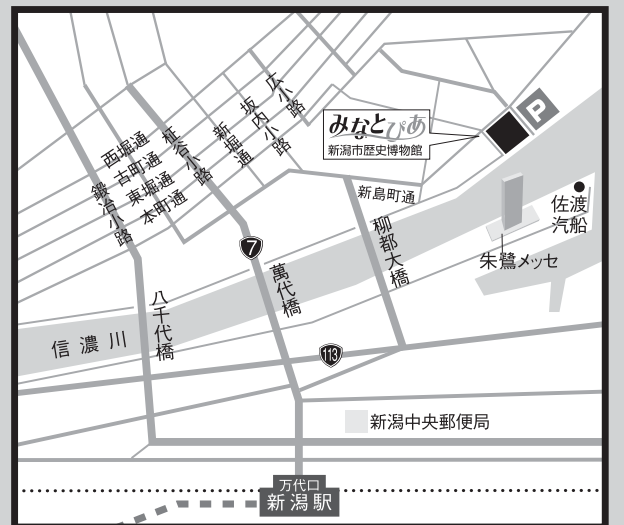
■観覧料

	一般	団体(20名以上)
大人	500円	400円
大学生・高校生	300円	240円
中学生・小学生(平日)	200円	160円

■中学生・小学生は、土・日・祝日の観覧料が無料になります。
■開館時間 9:30～18:00(10月以降17:00まで)
※観覧券の販売は開館30分前まで
■休館日:9月18日(火)・25日(火) 10月1日(月)・9日(火)・15日(月)・22日(月)・29日(月) 11月5日(月)

■交通案内

- 新潟駅より
 - 新潟市観光循環バス(犬夜叉号)で15分「歴史博物館前」バス下車すぐ
 - 新潟交通「昭和大橋・入船営業所」行きバスで25分「歴史博物館前」バス下車すぐ
- 車で
新潟バイパス紫竹山ICより約15分(駐車場:73台収容可能)
- 信濃川ウォーターシャトルが敷地脇より発着



※画像について:【船の図面】上4艘「明治32年度新潟県水産調査報告」掲載の図面を加工。下3艘、当館常設展示11舟模型の製作図面を加工。
【写真】「古信濃川を行く農舟」新潟市歴史文化課所蔵



〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10
Tel:025-225-6111 Fax:025-225-6130
URL <http://www.nchm.jp>
E-mail:museum@nchm.jp